

ユニバーサル **U** **NIVERSAL** **M** メッセージ **ESSAGE**



23

日本GAP山形支部報

ユニバーサル メッセージ 23

目 次

★UFOとテレパシー	相馬俊光	1
★宇宙哲学と偉人伝	篠 芳史	2
★宇宙活動の共通点	本山恒明	4
★輪廻転生	伊藤陸史	8
★GAP山形支部 ～座談会～		10
★印象と信念	清水 正	13
★自然とテレパシー	山口 緑	14
★山形支部会員によるUFO目撃 ～その1～	高野昌子	15
★山形・仙台合同支部大会案内		16
★おしらせ、編集後記		17

表紙タイトル 安藤澄雄氏

写真中央の光体がUFO

相馬俊光氏撮影



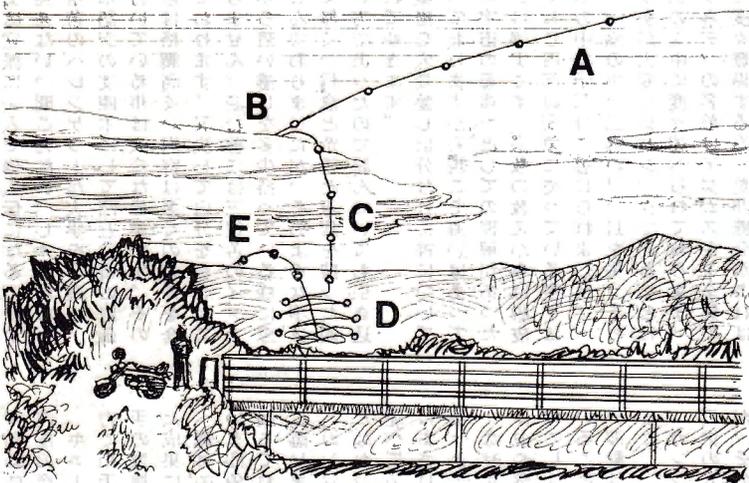
UFOと テレパシー

相馬俊光

昭和五十九年十月八日の目撃ですが、最初にUFOを発見したのは、ちょうど仕事から帰って来た時です。ゆっくり飛行しているのがカメラを持ち出してそのままオートバイで追跡しました。出来れば追い着いてみたいと思いましたが、そのうち雲の上に隠れてしまったので引き返しましたが、途中で止まってもう一度雲の方を見ると再び出て来たので、今度は距離的に近づくよりも見晴らしが良く落ち着いて観測出来る場所を探す事になりました。そしてさらに逆戻りし、小さな橋のたもとでオートバイを止め、光体を見るとゆっくり降下して来たので、写真に撮りました。写真は橋の手摺の横にある修復前のもと思われる古い小さな石柱の上にカメラを置いて固定して撮影したものです。

地上近くまで降りて来た後、じっと静止を続けている光体を見つめているうちに、向こうもこちらを見ている、互いに見ているようなフィーリングが湧き起こって来たので、その考えを確かめるためテレパシーを送ってみる事にしました。「日本語で送信しても通じるだろうか？」などとゆっくり考えている余裕はないので、とにかく伝わるように念じながら送信を続けました。突然横にジグザグ飛行を始めました。ちょうど人がライトで合図を送るような飛び方です。その後同じ高度でおだやかな旋回飛行を続けた後背後の山にゆっくり飛び去りました。

この目撃で一番感じたのはテレパシー



- A: ゆっくり移動
- B: 雲の中に一度隠れた
- C: 再び雲の中から出てゆっくり降下
- D: テレパシーを送信後、突然水平にジグザグ飛行を行なった。その後数分間飛行
- E: ゆっくり上昇して山の向こう側に消滅

テレパシーの内容

- 1 「スペースビープルでしたら、どうぞ合図を送って下さい」
 - 2 GAPの文字を思念して送信
- 上記1, 2を繰り返した

の重要さでした。日頃もっとテレパシーの勉強をしておけば良かったと反省させられました。

宇宙哲学と 偉人伝

篠芳史

宇宙哲学を学び日常生活の中で私なりに実践してゆくに従って改めて考えました。

この地球上で多くの人々が存在している中で偉人と云われている人々は宇宙的なカルマを持っていた筈であり、又、宇宙の法則を自身の内部で意識的に感知し多くの人々の為に貢献したのであるという事です。

そこで偉人と賛えられた人々の伝記を読み、そこから宇宙哲学をより以上に理解することと実践に役立つ事を確信して早速伝記を読み始めました。

偉人伝を読むのは、小中学生以来であると記憶します。私は科学者、音学家は沢山読んでおりましたので、今回は哲学の学びに比較出来る様な人々を選びました。又その人選は、伝記として読むのは始めてであり、その功績に関してこの機会に詳細に知りたい人々を選びました。

その人々は

「ヘレンケラー」「ケネディ」「ガンジー」「ナイチンゲール」です。

最後に偉人伝中人気一位と云われ、私も何度か読んだ「リンカーン」をあらためて読み直し、過去に感じた「リンカーン」と今回感じた「リンカーン」の相違及び今回読んだ全ての人々の特徴を宇宙哲学を基本にして比較してみることにしました。

読むにあたってどんな感じを受けるのかは見当が付きませんでした。又宇宙哲学とどの様な比較が出来るかという事も推定出来ませんでした。しかし、その結果は大変有意義なものでした。数多くの印象を受けましたが、その一部を述べたいと思います。

ヘレンケラーについてはもう一人の人サリバン先生を抜きにしては語れません。アン・マンズフィールド・サリバン

女史は立派に一人で偉人伝になる方です。見えない、聞こえない、しゃべれない三重苦のヘレンケラーが大学を卒業し、日本語訳の文庫本として四五〇頁の自伝を書いている事は大変な偉業です。その文章は格調高く、内容は多くの教えを含んでおります。又決して自分を高くおいておりません。読む前には三重苦のイメージから暗い感じを多少持っている様に思いますが、そのような事は全く無く、信念と希望と忍耐を持った明るい方であったので読んでいても引き込まれてゆきます。

聖書を大変愛し自分なりに神について述べておりますが表現こそ違いはあっても「宇宙の意識」としての理解があったことは確実です。宗教の教えからは脱皮しており内部の印象に従っている様子は自伝の中十二分に感じられました。

又四感の中、二感の目、耳を失っておりますが大変テレパシクであることは自伝の文中に度々述べられております。

ケネディの名前はアダムスキー全集の中に度々登場する為、是非機会があればと期待しておりましたが、その人間としての力強さは私の予想をはるかに超えるもので、否予想していなかったものと云えるでしょう。ノーベル特別平和賞を授与したいと考えました。

地球の全人類の平和を愛し現在の地球の上で修正しなければならぬ事を予め学び、自分がその修正の実行の為にこの地球に現れ、英知ある行動で難しい物事を次々に解決する様子はマインドで創作する物語では感じられない迫力と本当の

平和の使者が指揮をしている様子を私の内部の意識が教えてくれました。

キューバ危機で世界大戦を避けたのは力で相手国をねじ伏せたのではなく、相手の意識に訴える手段を最後迄持ち続けた成果に思えました。

総体的に感じる事は、完成された人という印象で、何を行なうに於ても自信に満ちており、この地球に世直しに来た様に感じました。

ガンジーは自分の肉体以外には何も持たなかつた方です。それは生命の科学にまさり、あなたがたの体は食物にまさると云う個所が思い浮かびます。

なぜ宗教的争いや人種差別の激しいインドを南アフリカで自分の信念を貫いたのでしょう。それは宇宙的使命を帯びていることを感じてる様子でした。格調高い波動は自伝の中から私に伝わって来ました。

ガンジーは、その当時の習慣を打破して世の人々の為に数々の行いをしましたが、その行いに対して自分では実験と呼んでいました。実験であるのでその方法よりも良い方法が発見された時は素直に改めました。それは進歩への最短距離でした。又、悪い事は、行ってはいいけど自から戒めそれらが自分から無くなる事を望み努力して行きました。この事は良き想念を放つ事の宇宙哲学の実践そのものです。

ナイチンゲールは、イギリスの上流家庭の令嬢でありながら、「私は幸福でない」と思い、自分の生きる使命と目的を



探していました。当時の病院は、世の中のきつないもの、みじめなもの、悪いもののふきだまりであり、看護婦とは、なまけものふしだらな女性で、その頃の女性の仕事で一番評判が悪くいやしまれていました。

後年ナイチンゲールの功績により病院の改革、衛生思想の普及、有能な看護の専門家の教育等その他関連部門は多くの発展をしたのです。

ナイチンゲールが意識による声なき声をかすかでもハッキリ聞いた事は四度体験していると述べてあります。その中の一度は自分の使命を考え、迷い、神に（

宇宙の意識に）話しかけると、心が静まり、あたりの静かな空気に体が溶けこんでいき、「おまえの進むべき道はおまえの信じる世の中の為になる貴い仕事をするのだ」とハッキリ聞こえ、その事を自分自身のメモに書いてあるそうです。リンカーンを改めて読み直したい理由は三つありました。

第一番は南北戦争の事ですが、奴隷解放の為に行なった戦争と思ひ込んでいた為、その理由を知りたかったのです。しかし読んだ結果は思ひ込み違いで安心しました。リンカーンは戦争に対しては全く反対していた事が理解出来ました。第二番はリンカーンが後のケネディであるとうまいリングを受け、その宇宙的な進歩と変化を確認したかったのです。私のファイリングが正確であればリンカーンとケネディに表現されるものは、前者が体験を重ね進歩をし力強く成長し、より以上の宇宙的貢献をする為に後者となって再び現れたと思われる事です。大きな宇宙の教室の中で学び、その学びの成果を英知と力によって地球が宇宙の中で立派に自立出来る事を願いながら何度も宇宙的平和の為に貢献している使者の雄大な姿です。

第三番は子供の時のリンカーン伝の読書感と宇宙哲学を学んだ現在の私の読書感の相違です。その違いのハッキリ分かった事は感じ方の質の違いである事を認め、宇宙哲学を学んだ事の榮譽を深く感謝し大変嬉しく思いました。

読んだ偉人の人数は五人でした。全員生き生きと力強く、悲そう感、暗さ、同

情、あわれみを受ける様子は全くありませんでした。各人各人の行動の中でこれを取り上げてみても必ずアダムスキー全集の中の一節思い出さずにはられません。特に生命の科学の一節「われわれは過失をおかします。しかしわれわれが賢明で、理解を望むならば、過失をおかした理由を知り、それを修正するでしょう。それで一つの教訓を与えてくれたその体験に感謝してよいのです。この体験がなければもつと良い方法がつかめないからです」。(生命の科学第二課)を思い出しました。

彼らは全ての考えを良きレッスンと考へ、他の人々から同情される隙を持たないのです。もしも同情する人があってもそれは同情する人の思い違いです。私も今回の機会がある以前は同情していた部分がありました。彼らにはその様な弱さは全くない事を知りました。

彼らは、神に「お前の考えを宇宙の意識であるというファイリングを持つています。宇宙の法則の実践者に必要な信念を希望がく忍耐がくはどんな時にも忘れていません。あらゆる人々、万物平等を常に信じています。宇宙の法則の実践を表現していただいた五種類の事実は物語ではありませんでした。

私は宇宙哲学の 実践の糧とする為に何かをつかみたい願いでフツと思いついた読書計画が思ってもいない成果となりました。宇宙哲学実践の教師の伝記であったからです。

今でも私の日常生活の中で解決出来ない

い事柄が起きた場合は大変参考になっておられます。

その後、生命の科学を何回か読んだ時、偉人の誰かのイメージが表われて生命の科学の理解の仕方が変わりました。

私達が宇宙の意識と一体となる事が人間の義務であり目的である事を改めて力強く感じました。

私達GAP会員はこの地球場に於て最先端の教えを受けているのです。

それは第一にアダムスキー全集を読んだその著書に述べてある内容を理解し、第二に、そのことを日常生活の全てにわたって実行することなのです。実行することによって自分自身の肉体の習慣細胞を宇宙的な動きをする宇宙的細胞に変化させることです。

私の肉体細胞が一つでも二つでも宇宙的細胞になることを願いながら私の方法によって実践に励んでおります。

今回は偉人の方々の伝記を体験談とするならば、宇宙の実践を目標とする私にとって大変参考になる体験談でした。

アダムスキー哲学と日常生活を混和して、一つでも多く宇宙的な行動を身につけたいと願っております。

今回の著書名

- ◎世界偉人伝ヘレンケラー 偕成社
- ◎ヘレンケラー自伝 講談社 ◎わたし
- の生涯 角川文庫 ◎ケネディ 偕成社
- ◎ケネディ 角川文庫 ◎ケネディとニューフロンティア 清水新書
- ◎ガンジー自伝 中公文庫 ◎ナイチンゲール 講談社 ◎リンカーン南北分裂の危機に生きて 清水新書

宇宙活動の 共通点

本山 恒明

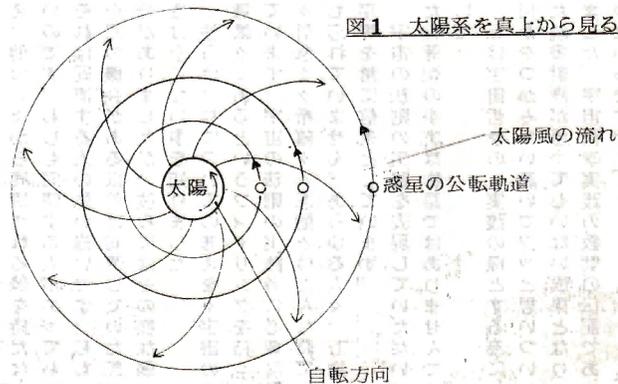
これは、すべて想像です。アダムスキの体験をいく分なりと証明する事にならぬのではないかと思ひ、ペンを取った次第です。又、この原稿を書くにあたり、伊藤陸史氏、遠藤昭則氏、石田義雄氏、松本隆司氏の方達からアドバイスをたまわりました。厚くお礼を申し上げる次第です。

さて、本題に入りますと。以前、銀河系の中心部を写した写真を見て、ふと、太陽系とよく似ていると思つた事がありました。それは、銀河系の中心部からジェット噴射のようにガスが放出されているシーンでして、このガスが渦を巻きながら円盤状に拡がってゆき、このガスの中にすべての恒星が存在している訳です。そして、この太陽系の太陽からもガスが放出され、太陽の自転によつて渦を巻きながら円盤状に拡がってゆき、各惑星がこのガスの流れの中に位置しながら太陽の周りを公転しています。(図1)

このガスの流れを太陽風と云います。この太陽風は「プラズマ」と云う原子核と電子がバラバラになつた電離した気体(別名イオン)の総称なのだそうですが、各惑星にエネルギーを与えているのは、太陽からの電磁波よりも、この太陽風ではないかと思ひました。

それを裏付けて下さるかのようによ、伊藤氏が地球の空が青く見えるのは、太陽からのプラズマが地球の大気と衝突して可視光線に変わる為に青く見えるのであって、太陽光線のスペクトル作用ではないと教えて下さいました。しかも、このプラズマならば、アステロイド帯による

図1 太陽系を真上から見る



加速説も可能になってきます。

ところで、この太陽風の成分は、おもに水素の原子核である陽子、ヘリウムの原子核と電子等から成り、地球付近では五百km/秒の速さで流れる、超音速の衝撃波をとまらぬ風です。そして、これらの粒子を加速すれば、有名な放射線に変化します。

陽子は宇宙線、ヘリウムの原子核はアルファ線、電子はベータ線です。いずれも人体を破壊してしまふ有害な放射線ですが、その為に、第一次アステロイド

帯より外側にある惑星が皆巨大惑星になつて居るのじやないかと思ひました。

宇宙からの訪問者」の記述に、地球人の寿命が短くなつたのは、空をおおう雲がなくなつた事で、宇宙線が地上に達するようになった為と述べています。

この宇宙線は、光速に近い高いエネルギーを持ち、地球の大気と衝突した時に多くの元素を破壊して、無数の素粒子を造り出して、それが二次宇宙線となつて、昼夜の区別なくシャワーのように地表に降りそそぎ、なかには、地下数千mまで貫いてしまうものもあるとの事です。

そこで、第一次アステロイド帯より外側の惑星は、地球の大気層等より何倍も大気層を厚くする事によつて、二次宇宙線が地表に達しないようにしながら、途中で発光させるようにしているのじやないかと思ひます。

アダムスキが「土星旅行記」の中で、土星に行こうと思へば、瞬時にして行く事も出来たが、わざわざ時間をかけましたとあります。この理由は、土星の方が地球よりも何倍も大気が厚い為に、大気圧が大きい訳で、いきなり低い気圧の所から高い気圧の所に行けば身体がつぶれてしまう為に、UFOの内部で土星の気圧に体の体圧が等しくなるようにする処置が必要だったからではないかと思ひます。

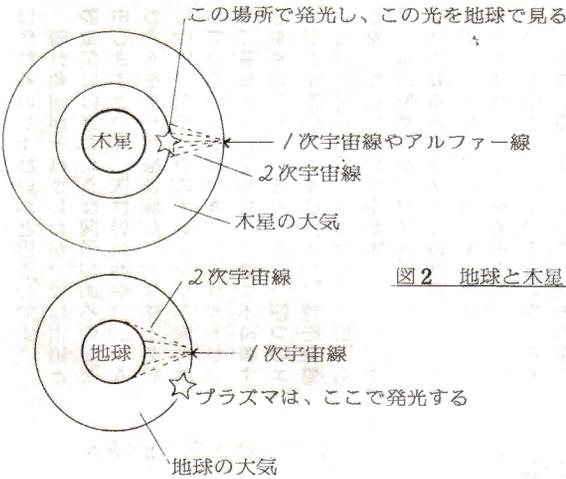
又、各惑星の色が黄色や緑、青と違つて見えるのも、この大気の厚さと関係していると思うのです。地球の場合、大気が薄く、プラズマと衝突した時には、たぶん紫外線が発生し、大気を通して来る時紫外線の波長が長くなって可視光線

に変わり、地表に達する頃には赤外線に近くなる。つまり、大気には、テレビのブラウン管の内側や蛍光灯の管の内側に塗ってある蛍光物質と似たような、電磁波の波長を長くする蛍光作用があるのじゃないかと思えます。ですから、高い山に登れば、空の色が紫に近い濃い色になり、紫外線が多く寒いのに対して、低地では赤外線が多くなって暖かくなると云う訳です。

朝やけや夕やけが赤くなるのは、粒子が大気と衝突した時の光を横から見ることによって、光の通過する距離が長くなる事によって起こるのじゃないかと思われま

す。木星の大赤点も、これと似たような事が起こるからではないでしょうか。これも、想像ですけど、巨大惑星に飛び込んだ粒子は、かなり奥深い所で発光する。そして、この光が厚い大気を通過中に波長が長くなり、表面に出て来た光を私達は見る事になる。(図2)それが厚い大気であれば、ある程度赤に近い色になるという訳です。木星から赤外線や電波が観測されるのも、すべて光の振動数が落ちた結果だろうと思うのです。ですから、私達は、各惑星が太陽からの光を反射する惑星を見ているのではないと思えるのです。

その一つとして、冥王星を上げますと、冥王星と太陽間の距離は、地球、太陽間の距離の39.5倍あります。仮りに、太陽が光を出しているとして、冥王星が太陽から受ける光の量を単純計算しますと、地球の光量を1として、 $\frac{1}{39.5^2}$ つまり1560



です。科学者は、こうした事から冥王星は、温度がマイナス260℃の絶対温度に近い極寒であると述べていますが、冥王星は、地球から見ると、白っぽい黄色に見え、直径が五千kmと解っています。そこで、なぜ冥王星が地球から見えるのかと云う訳なのです。絶対温度に近いという事は、赤外線を程んど受けていないならば、光も又、電磁波で、冥王星に届く光もわずかです。問題はこれからです。冥王星で受けた太陽の光が反射して地球に届くまで、38.5倍の距離があり、地球の光が地球に届く訳です。これを合

わせると冥王星の光が地球に届くのは、地球の光の四千万分の一になってしまいます。学者は、冥王星はメタンが凍りつき、太陽の光を全反射するようにになるので見える等とアホみたいな事を云っています。大体この世に、光を全反射する物質等存在しませんし、まして宇宙空間にある星間物質やガス体等を考え合わせれば、冥王星からの光量はゼロに近いのじゃないでしょうか。つまり、太陽からの光では冥王星を発見する事すらむずかしかったと思うのです。これは、他の惑星でも同じでしょうが、冥王星は地球と同じように明るいため地球の望遠鏡で観測が出来たのではないかと。

さて、アダムスキーは、太陽は冷たい天体で、近づけば凍りつくようになると語っています。(アダムスキー論叢集17P) しかし、科学者は、太陽は水素爆弾の大掛りな物で、内部の温度は千数百万度、表面は六千度の超高温の燃核融合が起き、その時に出る高温のプラズマが太陽風となつて放出される。と語っており、アダムスキー氏の説と真向から対立しています。

ところで、科学者が太陽を水爆だとする根拠は、地上で一分間当たり太陽が何カロリー熱量を出しているか(これを太陽常数と云い)これを元にして計算していくと、太陽の表面温度が六千度になると云う訳です。そして、これだけの高温を出し続けるには熱核融合しか考えられないのだと。しかし、このデータにはおかしい所があります。それは、太陽の熱量を計

た場所です。あくまで地表での計測に過ぎず、大気を通過する電磁波がどう云う変化を起こすか考慮に入っていないのです。

さて、太陽が高温の核融合でないとすれば、一体どんな動力を使用して活動をしているのかとなります。遠藤氏は「太陽は発電機のようなもの」とヒントを与えて下さいました。そして私には、それは、宇宙の何処に行っても存在する静電気ではないかと思つたのです。

A・D・M・Aという方が書かれた「静電気の本」と題する本の中に、「一般の人々が知らない色々な静電気によって引き起こされる現象が載っており、興味の尽きないすごい分野でもありますが、地球人が帯電防止の方にはばかり力を注ぎ、ろくな研究がなされていない事を大変残念に思います。

ところで、静電気を一般の人は、たぶん物と物との摩擦で起こると考えていると思えますが、実際はそうではなくて、物と物との接触面で電子のやりとりが行なわれ、摩擦するものは、この面積を大きくすると定儀づけられております。つまり、摩擦電気ではなく、触れ合い電気と云つた方が良いかもしれせん。ですから、物のある所、もしくは原子のある所ならば何処にでも存在する事から、宇宙のすべてが同じだと思つた訳です。

ところで、ここで少し脱線してみたいと思ひます。この静電気は、大半の人はカミナリと物を引きつける性質位しか知らないでしょうけども、アメリカで電線発生する電巻と砂嵐は静電気が発生する

のだそうです。たかが静電気と思う方が多いと思いますが、雲や砂が帯電するととてつもないエネルギーを持つようになるのです。

ファン・デ・グラーフの粒子加速器は静電力を応用したもので、案外、アステロイド帯の加速は、この原理を使用しているのかもしれない。又、カミナリの後で青白く光る火の玉が現われ、どんな物体をもすり抜けてしまい、雷雲の中を航行中の飛行機の乗客をパニック状態にした事があるそうです。これは、反陽子反電子等から成る、反物質であるとの事です。と云う訳でして、静電気には、私達の知らない、以外に高いエネルギーを持つものである事を知ってほしかった訳なのです。

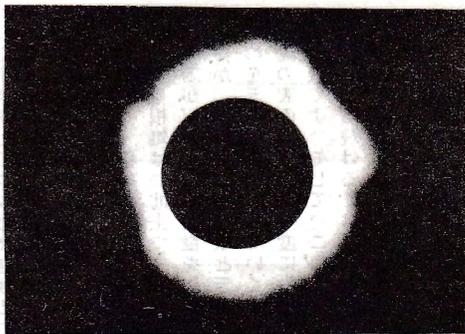
さらに、アダムスキー氏も、何もなかった空間でカミナリの放電が起こると、無機物が作られている事が知られていますとあります。(生命の科学56P、57P)つまり、静電気は一種の核融合のような事までやってくるのかもしれない。

今、地球では人工太陽を作る実験をやっています。これを別名プラズマ炉と云うのだそうですが、これには、都市を走る電車をストップさせる程の大電流を必要とし、超高圧、超高温に耐え得る設備を必要としている訳で、互いの国で何処が先鞭を着けるかとのぎを削っている訳ですが、充分完成はしないでしょ。むしろ、こうした莫大な電流を使用する事で、省エネの逆の事をやっているようです。私には、静電気を研究すれば、こうした大掛りな事をしなくても人工太陽

は作れるのじゃないかと思うのです。

随分軌道がそれましたが、では太陽と静電気にはどのような関係があるのかと申しますと、第二次世界大戦中、三十人の人々を乗せた輸送機が、大平洋上を航行中に、突然一つのエンジンから火を噴いていくのに気が付き、パイロットが、すぐ警報ボタンを押し、全員に不時着する事を知らせた。そのうちに、四つのエンジン全部から火を噴き出し、死を覚悟したが、何ら航行に支障はなく、計器も正常に作動していた事があつたそうです。又、昔の船乗りが、マストの先端から火が立ち昇るのが見え、この世の終りと思え思う程恐れおののき、船火事で船が沈むのではないかと火を消そうとしたが、その火が全く熱くなく、自分の指からも火が出ているのを見て、これは神の御加護によるものとして、セント・エルモの火と名づけたそうです。これは、強い電界が自然に出来て、大気の絶縁破壊が起き、電気を放電するコロナ現象と呼ばれるものなのですが、太陽が皆既食になった時に見える美しいコロナに色も形も似ているのです。

大昔から、雷の時にいつの間にか火の玉が現われて、人を驚かした事がよくあつたそうです。こうした話を聞いた人々は、迷信の分野に入れてしまい、これまで全く研究されて来なかつたようですが、A.D.M.Aは、この火の玉は静電気です。来たプラズマである事はまちがいないと語っています。しかも、このプラズマは手で触って持つ事が出来、全然熱くないのだと石田義雄氏が教えて下さいまし



た。そして、ムーアの調査によれば、この静電気プラズマは、鉄のクサリを粉々にする程の高いエネルギーを持つている事が解つたそうです。大半の科学者は、こうした事実を知らず、プラズマは高温にしないと作れないと思ひ込んでいるようですが、ともかくアダムスキーが語つた、太陽は冷たい放射線を出す暗い天体だと云う事を、証明出来るのじゃないかと思ひます。意欲ある方は、この研究をなさってみて下さい。もしかしたらノーベル賞も可能かもしれません。

これも想像ですけど、静電気はどんな元素でも混合物でも発生します。太陽は色々な元素から出来ている混合ガス体で、自転によって赤道と極、あるいは表面と内部のガスの流れに差が出来て乱流や渦を生じ、その為に超高压の静電気が発生し、その時出来たプラズマを放出させる一方で余分な電子はコロナ放電として外

に出す。この時の電子の流れが陰極線となり、同時にX線を出すのではないかと。ですから、科学者の云う太陽のコロナは百万度もの高温で、X線を出す訳ではないように思うのです。だいたい、太陽の表面温度が六千度あるのに、コロナは百万度あると云う事ですが、太陽からの熱でコロナが高温になるのだとすれば、低い温度から高い温度に熱が移行する訳がありません。これを、熱力学の法則と云いますが、科学者はあまりにも太陽を水爆だと決めつけている為に、こうした手賃が出て来ると、随分苦しい言い訳を考えねばならないようです。

ところで、こうした考え方から行くと、当然他の恒星の事も考え直さなくてはなりません。ともかく、現在の太陽は五十億才だと云われています。これが真実かどうかは解りませんが、たとへ核融合で燃えていたとしても、よほど今まで持つたものだと思うのです。

そんな時、インドネシアの皆既食の折、太陽にも輪がある事が発見されました。この輪は、宇宙塵から出来ていて、太陽の引力に引かれて吸収される前の物であるそうです。

又、ハレーの星等は、水素ガスや色々な星間物質を遠い所から運んで来ます。太陽は、これらの元素を吸収して動力とし、莫大なプラズマや電磁波を放出する一種の生命の呼吸のような事をやっているから、今まで小さくならなかつたのじゃないかと思うのです。(図3)

ハレーの星がやって来て、地球で異常気象が起こるのではないかと取沙汰さ

惑星

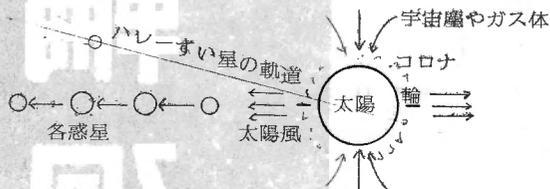
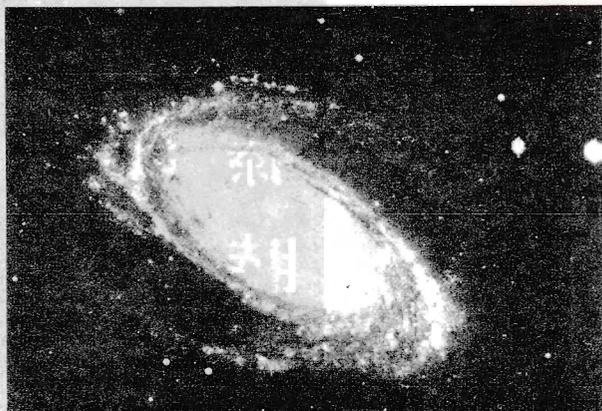


図3 太陽系を真横から見る

されていますが、この地球ばかりではなく、当然別な惑星でも異常気象は起こるでしょう。プラザーズは、こうした事は解っているのでしょうか、もし仮りにハレー彗星が原因だとすれば、ハレー彗星を取り除くような事をやったかもしれません。ところが、別段ハレー彗星に対して何もやるうとはしません。これは、異常気象よりも重要な役割りをハレー彗星が持っているからではないでしょうか。宇宙には無駄な物は無いからです。

ところで、これも本当の事が解りませんが、銀河系の中心に巨大なブラックホールが発見された、と報告されました。先程のガスの放出とは逆の事が起きているように思われますが、この理由も、ど



うも銀河系の中で古くなった球状星団や元素等を(原子核を構成する陽子の寿命は、百八十億年と云われています)このブラックホールで吸収し、内部で新たに生気を与え、それをガスとして放出するホワイトホールの役割りも持っているのじゃないかと思つた訳です。(図4)

ところで、松本氏から、最近の量子力学で、通常、電子が原子核の周りを回っていると思われていたのが、実際は、原子核が電子を吸ったり吐いたりしている事が発見されたと伝えて下さいました。こうした事を合わせれば、この宇宙はミクロの世界から銀河系に到るまで、皆、生命の呼吸を行ない、生きて活動している。そんな気がします。

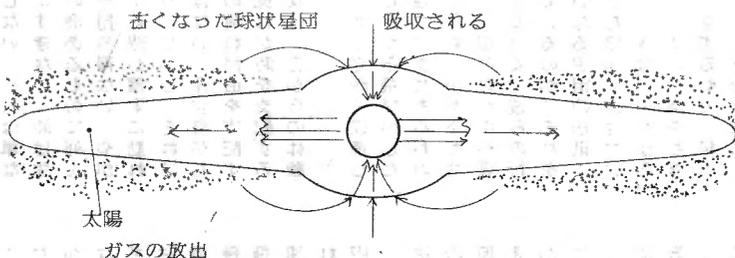


図4 銀河系

惑星の形成は、宇宙塵やガス体から始まり、重力によって集まり、核が形成され、最終的に恒星として誕生する。この過程は、銀河系全体の進化と深く関係している。また、ブラックホールの存在も、銀河系の構造と進化に重要な役割りを果たしていると考えられている。

輪廻転生

伊藤睦史

どれだけ 時が流れ
 どれだけ 子供たちを旅立たせたのか
 この 大いなる宇宙へ
 この 時の流れの中へ……

大いなる母のごとき存在は今、自分自身の壮大なドラマに終止符をうつべく、輝きを増大させていた。それは終えんを迎える寸然の命の輝きであり、燃え尽きる前に一際明るく燃えあがるロウソクの炎のようであった。

そして、なによりも、彼女の活動が、かつてない程活発になった証であった。この光こそ、やがて消えさり無に帰していく自分自身の鎮魂歌であり、自分のドラマが幕を閉じた後、新たに始まる次のドラマへの前奏曲でもある。

子供たちは旅立ち、再びもどることはない。それゆえ、自分の全てを子供らに分け与える。それが自分の役割であり、存在理由なのだ。それだからこそ、何十億、何百億という時の流れの中で、ただひたすら子供たちを築立させてくれたのだ。彼らは、母の手を離れ自分だけの力

で暗く冷たい大宇宙のただ中へ強くたくましくはばたき旅立っていく。それを見守るのが自分の生き甲斐だった。しかし、それももうすぐ不可能となる。その時、自分の長かった一生はドラマの幕を閉じ、終演のベルがこの大宇宙に鳴り響き、終ての終りと総ての始まりを告げる。その瞬間まで死力を尽しこの役を演じきろう。彼女はそう思った。

今、彼女の中からは絶え間なく子供たちが巣立っていく。自分が命あるもののであることをこれほど強く感じたことはない。時の密度がこれまでより濃厚になるのを感じる。今までの時の密度が、あまりにも希薄に感じられる。夕々しく最も充実し、幸福な時なのだ。今、自分はひとつの生命として輝いている。命は輝くものであることがわかるのだ。これ以上の幸せがあるだろうか。この充実感こそ永年探し求めてきたものなのだ。時は加速度を得たかのように次第に流れを速めていく。ほんの一瞬の間に驚くべき数の事々々起きる。ひょっとすると自分が発生して以来の出来事が全てこの

一瞬に詰まってしまいかもしれない。夕時々とはいつたい何なのか？ それは実在するものなのだろうか。いや、夕時々など初めからありはしない。それは単なる錯覚にすぎない。時は生けるもの命あるものに何んら効力を持ち得ない。やがて消滅する時が確実に訪れるだろう。しかし、それは、

時がもたらすものではない。命自身もたらすのである。時の流れが命を支配するのはなく、命の流れが時を支配するのだ。そのことを彼女は、自からの体験によって認識した。

子供たち——いや、もう立派に成長した若い鳥たちは母のもとから飛び出したあと、あるものは単独で、またあるものは集団となって、右も左も、上も下もない漆黒の闇の広がる大宇宙のただ中へ吸い込まれるように消えていく。彼らの行く手に何が待ち受けているのか。それを知るものはない。大いなる宇宙の法則に従い、ただただ前に進むほかに道はない。もう振り返ることはできないのだから、恒星からの風を受け、体の一部をちぎり飛ばされ長い尾をひきずるもの。星々の重力にとらえられ、その伴侶となるもの。重力に耐えきれず、ちぎれ、星にかかるとなるもの。永遠に終ることのない流浪の旅を続けるもの。それぞれたどる道は異なる。しかし、いずれも己の可能性を発現させるといふ同一の目的に根ざした、一つの姿にすぎない。そして、

その目的は、彼らに限ったものではなく、全宇宙のあらゆるものたちの存在理由なのだ。

彼女の内匠は、しだいに上昇していた。身体は取縮をはじめ、輝きは増すばかりであった。終演の時がそこまでやってきたしるしである。粒子同志が出会、ぶつかり、一つとなる。失われた質量は光となり、光は粒子に衝突し、粒子のエネルギーは上昇する。粒子たちは再び出会い融合していく。大きくなった粒子が同じ事を繰り返していくのである。幾度も幾度も……。そして、また一つ若き鳥が飛び立つのだ。かつてなかったほど速い速度でその作業は行なはれていった。それは、あたかも何ものかの意志が彼女の内に働いているかのようにであった。

途方もない子供たちを大いなる宇宙に送り出したあと、少しの時をおいて一つのまばゆい光の塊が彼女から飛び出し、無限の闇の中へと吸い込まれるように消えていった。それは、固体であるにもかかわらずその光量の大きさのため、まるで光そのものという感じであった。

彼女の輝きはしだいに衰えて、かすかに光をおとしていった。まるで、心臓の鼓動のように、光はまたたきながら確実に消え去っていくプロセスをたどっている。燈りは弱々しうに、いかにも頼りなく揺らめきながらもう光り続けていた。しばらくその状態を続けたあと、急激に光はおち、ついに消え去った。

これで私の長いドラマは終わった。あとは、我が身を大いなる宇宙に委ねよう。困難な使命をなし遂げたあとあのあの脱力

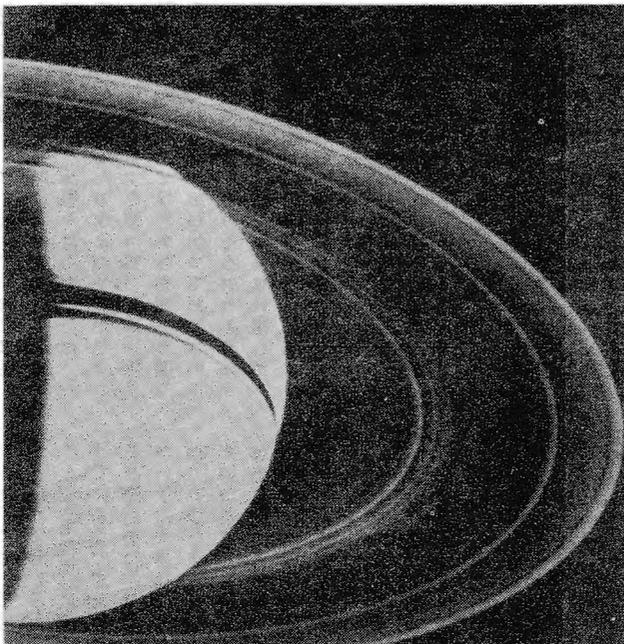
感と満足感の混ざり合った奇妙な感覚が彼女を包み込んだ。数々の思いが彼女の内を過った。この世界に生を受けたあの時。初めての子供たちの旅立ち……。

そうしているうちに、いつしか彼女はあたたかく、おだやかなやさしさに包まれているを感じた。そして、意識も遠ざかり、全てのものが離れていった。

意識が完全に失われた直後、一条の光が彼女の内からあふれ出て、ゆっくりと回転しながら宇宙を隈無く照らし出すかのように拡がっていった。あるいは、これが子供らへの最後のメッセージだったのかも知れない。そして、その光は、光度を上げていった。完全に光が消えさつたあと、一瞬の沈黙があり、次の瞬間、全ての質量があらゆる光の形態をとり、ほとぼしり出た。光の糸が次々に層を切り裂いて真直ぐに伸びていきながら、帯のように一つの平面となり光のペールをつくる。光のペールは宇宙を幾つかに切断するように拡がっていく。そして、ペールは揺らぎはじめ、次第に波のようにならねりはじめた。その時、彼女の内から光の束が数えきれぬほど放射された。光束は、波の谷間を一直線に走り抜けていく。あとからあとから、その光は走り抜けていくのだ。ありとあらゆる色の光の束が走る。この光はどこまで届くのだろう。目に見えぬ光と伴に、この光はどれだけの命を星々に芽生えさせるのだろうか。若き鳥たちを追い抜き、拡がっていくこの光は、光のペールが少しゆがんだかと思ふと、水面に小石を落したかのように光の波紋が拡がっていった。一つ二つ波

紋が生じたあと、光のペールと光の束は消えた。あとには、ただいくつもの波紋が暗い闇の中に拡がっていく。幕を閉じたドラマの余韻を残すかのよう……。

……そして、又一つ、大宇宙のどこかに彼女のような存在が誕生する。



GAP山形支部

＝座談会＝



このたびはGAP山形支部が月例会でいつも行なっている座談会の模様を掲載してみました。形式は、参加者一人一人に対して、東京月例会における久保田先生によるテレパシー解説講義の感想とか近況などを伺い、それにともなって話を発展させていく形をとっています。

皆さんから出るお話は、身近かなものですが、時にキラリと光る宇宙的な話題があり、リラックスした和やかな雰囲気を感じられると思います。

テレパシー解説講義テープは、六月に行なわれたものを七月の月例会に流しています。今回は「肉細胞から来る印象」からです。

七月、山形支部月例会出席者

清水 正

清水 敏恵

高野 昌子

加藤 寿栄子

柴田 文子

柴田 光明

小野 千代子

本山 恒明

以上八名

——それでは近況報告、いつものようにお願いいたします。それでは、敏恵さんどうですか。

敏恵「今、手織の学校へ行っていて、そこであのいるいるありまして、あの一人のおばさんが居るんですね。そのおばさんは私、初対面の時にね、あつ、この人は気が合わないかと思つたんですね。そしたら何か怒るんですね。何かちょっとしたことでもすぐ怒つて、私は一生懸命やつているんだけどあらを捜そう捜そうとして最近それがわかつておかしいなあと思つて、あんまりそういうふうには嫌われると、そばに寄りたくない寄りたくないところ思つてしまふんですね。そういうのやめてね自分から積極的におはようございます」とかねニコニコやつてくと、だんだんとおばさんのヒステリーみたいなのが取まってきたみたいなおばさんが嫌い」（一同笑）

——そういう人居ますか
光明「やつぱりその時によつて気嫌がいい時と悪い時の差が激しい、うちの会社の工場長なんですけど、気嫌がいい時はすごくいいんだけど悪いとなると極端に悪くなつてその差があるというか……」

——悪い時どう対処しますか
光明「なるべくそういうのは気にしないようにしているというか、想念なんか送つて気嫌が良くなるように……」

——そういう人居ますか
文子「前に居ましたね。今は職場にはいないんですけど、前すごいヒステリックな感じで男の人で、ちょうど上司というか責任者クラスの人なんですけどいまし

たね。すごいんです。朝から夕方までしゃべることって怒ることはつかりで文句ばかりで、それが怒るといふよりもただ感情をまる出しにして怒るんですね。自分の感情で怒るって感じて、ですから相手に対する思いやりで叱るとか怒るといつてもいろんな怒り方があると思ふんですね。ただ自分の感情だけで怒っているんですね。そういう人達を見ると感情をコントロールしていることがいかに大事なことが痛切に感じますよね。いつも自分の感情をコントロールしていつもこう愉快的オーブンマインド的なそんなもう明るい楽しい状態であるということがこののを本当に大事なんだなというのを感じますそういう人を見ると……」

——うちの職場にもいましたね。今はだんだん取まって来たんですけど、何んで昔そんなに感情的になつたかというところを考えたらね、あの最初僕らとその人は相当年齢が離れていたんですね。それで僕らはかけだして仕事が終わらない。でその人も初めてのことです仕事が終わらないんです。だから怒つて感情的になる。おまえたちしつかりやんきやダメだというふうになるわけですよ。だからだんだん僕達仕事覚えてくるとその人に負担かけずに仕事するようになるからその人安心するからね。だから最近その人は落着いてきて、いろんな情勢がその人にとって安心できる方向に行くようになってからは怒らなくなつた。なんか怒るといふのは恐怖から出てくるような感じですね。自分がまずくなるんじゃないかという恐

怖からぬ。

高野さん最近どうですか、宇宙的な出来事とかそういうのがあれば……

高野「仕事をみつける時に状況があったんです。働き出ようと思つたらうちの親が、困る猫置いてつちやと言われ、それで家で仕事できてかなり稼げるものという状況があった訳。このかなり稼げるものは個人的な状況だったんだけど、家で働けてお金になる仕事を捜したいと思つたんです。

それで三月いっぱいには絶対に見つかると思つてたんですね。四月から見つかれば一年分稼いでいこうと思つて、それで確すその時見つかると思つてたから四月の頭になつたらひよいと仕事が舞い込んで、それから足掛程度に考へたのがけっこういい仕事でねいい稼ぎになるからやめられなくて今にやっています。

やつてるとけっこう楽しいのね。早い話流行の最先端（ニットの見本作り）でしょう。ああ今年はこのうのははやるんだねと、そういうのが面白くて……

それでほとんどあせらず仕事がみつかつてしまったものだから、不安もなく仕事は見つかる。そう思つたら仕事が舞い込んできた」

——他に何か変わったことありますか
高野「さつき強烈な信念をもつて先生が下痢止めたという話あつたけども、私もよくやるんだけど私は下痢じゃないんだね。

私熱出ると40度近い熱が出る時あるのもその日は熱出ていていけど明日の

ケジュールというのがあるじゃない。どつか行かなきゃいけない。確す出掛けなきゃいけない熱出てたら困るという時あるのよね。その時おもしきり下げちゃう」

——体調も良くなる？

高野「後で響くみたい。だってある分下るんだから、先生みたいに悪いもの出しちゃうんだつたらしいんだけど、熱つてねなんだかよくわかんないしさ」

——一時的に回復させてまた寝込むと、そういうことができるということですね。

高野「エネルギーの流れで、手はらこつちから入つてこつちから抜けるってあるじゃない。吸収する方と放射する方とあるでしょ。だから放射する方だったら反対に左手から吸収しているあるでしょ。放射する方から冷たいもの吸収して熱を放射すると体温下つてくるのね」（中略）

——それでは加藤さんいかがですか。

加藤「近況報告とはまた別なんですけど敏恵さんの話で私も職場でいろいろと職場転々とするんですね。同じ所だけじゃなくて何かお産明けとかいうとまた別の所にやらされるんですね。

一人目生んだ時に今の所にボンと来てその時にちょっと気の強い人が居たんですね。ハッこれはダメかなと思つたんですね。やっぱ離れてしまふんですね。

口きかないほうがいいかなあとか離れて自分の席から動かないようにして、でもやっぱ腰骨に集中的に攻撃されるんですね。いろんな面でもうつつやなことでもどんなことでもそうなるよけいにその時点で自分の力に閉じこもっちゃうって、その時はどうしようか、どうしよ

うかと思つて悩んだけど、じゃその人に近づかないほうがいいのかなあと思つて……

——それで、じゃ反対にこつちから、この間の先生のタイプじゃないんだけど祝福の想念というか、こちから進んで思つて、どんなに露骨に攻撃されても同じ態度で「おはよう」とかいろんこつちから話し掛けるとか、その人にだけじゃなくて回りの人にも同じようにというか努力しようと思つたんですね。

最近やつと解決しまして、その人だけじゃなく今まであまり親しくなかった友達も気軽に話し合えるようになったと、その場所に来たのは一年位前のことなんですけどもね。一年かかつてやつとなんかすこく今は……

やっぱ自分だけ閉じこもっちゃういけないんだなあと思つました。

それから、こちからいやだなあと思うと相手もその想念を受けるんだと思うんですよ。だからその点では自分の悪い想念というのですか、それを放つたという点では反省しているつていうか。だからこちから進んで、相手がどんなバチを浴びせても離れていても会つた時はこちから明るい想念というか、もう本当に私は好きなんですよという想念で努力したんです。

今はもう普通にそういう強烈なバチなんかはしなくなりました。

どちらかという、近くの人には話すんだけど、あまり話してない人には話しかけるってしなかつたんですね。は、これじゃいけないなあと思つてどんな人に

も、お屋の時に一緒に食堂に居る知らない人でも一緒になつたら「今日は熱いですね」とかいろん話して方ね一言話しただけでも帰りの下駄箱の所で会つた時間、今まで知らない人じゃなくてすこくずつといたみたいない感じで話せるようなそういうふうな感じをできるように……

——今まで会社がなんか自分の勉強の場つていうんですね、どうしても家の中だとあの婿とりだから気を使わないんですね（一同笑）だから会社があるんなら勉強の場、だから勤めてここで仕練しなくちゃいけないんだぞなんて……

でも子供三才になつて相当いんなことやるようになったんですね。上に反対発するし態度とか目つきとかすこくもうきびしい時があるんですね。で、なんぞそんな目するのかしらというとおばあちゃん「あんたもそういうことするよ」と言われるんですね。（一同笑）

——あつこれはいけないと思つて、子供を見てね私もこうするんだなあ、ほんとに一つ一つ子供を見て自分が勉強なるみたいない感じしますね」

——自分を見るみたい。はあ……どうもありがとうございます。それでは柴田さん

——「そうですね、たいして変わったことはないんですけども、二、三日位前に会社での出来事なんですけど、なにかその日は前の晩からすこく頭痛がして気分が悪かったんですね。会社休みたいなあと思つたんですけどもう休めないんです。モーレッツに忙しくて休めなくて出勤

した訳なんですけど、朝からずつと頭は痛くて吐き気はしてくるし、もう本当に気分が悪くて、もう本当に頭が割れそうに痛くて、すぐ寝たいような気分だったんですけど、でもやっぱりしなきゃならない仕事があって早退もできなかつたんです。

それで先生の今月のテープ前聞いてましたから思い出したんですね。先生が下痢を止めたように私もやってみようと思つて、信念の力で直してみようと思つて、「いや絶対大丈夫大丈夫だすぐ直るんだすぐ直るんだ」と思つてもう九時位からお昼位までそういう信念を持っていた訳ですね。そしてらもうお昼まで直つたんです。すつかりと。

もしかして偶然だったのかもかもしれませんが、それまではそういう信念の力でなんか病気とか体の調子の悪いのを直すとかなんというのをやったことがなかつたんです。疲れてくれば寝たり、そんなすぐ休むっていう感じだったんですけど、なんか今回の経験で自信がでてきたような気がするんです。だから疲れた時でも休むのが一番なんですけど、ある程度自分の信念でもコントロールできるんじゃないかというそういう自信ができました。

それからもう一つ夢の話なんですけど、以前から時々正夢みたいな予知夢とか見ることがあつたんです。

ずつと以前免許取りたての頃、車ぶつけられたことがあるんです。で、このぶつけられた二、三日前に夢を見たんです。自分が車運転していて、どっかで衝

撃を受けるんです。あつこれは事故かなくて夢から覚めて思つたんです。なんか、その夢を見てから車運転するのがちよつとおつこうな状態でした。でもやっぱり運転しなきゃならない時があつてしたんですけど、そういう夢の中で事故に遭うんだけど大丈夫だという印象があつたんです。

そして、それからちよつと大きい八トン車位にぶつけられたんです。私の車なんかもう一回転して。でもたいしたケガしなかつたんです。

そういう夢を見た時に、そういう予知夢だつたら、そういうことは絶対ないんだという信念を持っていればよかつたんですけれど、その頃はまだあんまり信念の力というものを知らなかつたんです。(中略)

そして、なんか最近仕事が忙しいせいもあつてちよつとたるんでるんです。本当に自己反省するんですが、それで対策を考えたいと思つたんです。どうしたら自分でも最高の精神的にも信念の状態でもベストの状態に居られるかなあつてずつと前にパツと浮かんだことがあるんです。それは、いつもブラザーズから自分の信念をのぞかれてもいいような状態、そういう状態がベストなんだよみたいな印象を私前キャッチしたことがあつたんです。

それをまた今回そんなふうに戻して、今までのことをいつも信念をブラザーズは、もうみんなの信念の状態を知ることができると思いますので、やっぱりいつも見られても堂々とこんな状態で胸を張

って私は頑張ってるんだと言えるような状態にしたいなあと思つています。(中略) 光明「最近、特に仕事のほうなんですけど、もうそろそろ務めて一年以上たつたんですけど、去年入つて入つたたん急に忙しくなつて、最近それであまり忙しいとやっぱりこうよくないんじゃないかなあと思つてます。

それで忙しいとどうしても職場の雰囲気も忙しい忙しいという頭になつてきちゃつてねグチ出てくるらしいんですね。でもそれじゃあまり良くないと思つていたんですけど……

僕も忙しいちゅうよりも、暇だ暇だというほうがいいと思つて、最近段々と暇になつてきたんですね。これもやっぱり仕事の一つの学習になるちゅうかと思つて、やっぱりこういう地球ではどうしても、必ずしもいつもコンスタントに暇とは限らない所が多いですから、まあそういうのもイメージ法で、仕事はある程度暇だけでも会社がつぶれたりする(一同笑)。仕事がなくなつたりして……

ですからやっぱり仕事をできれば毎日イメージ法で仕事もちよつといい位あつて、それでそういうのにマツチした宇宙的な状態に持っていけるような、そういうイメージを描くっていうのが大切だと思つています。

あと、仕事をしてて、よくわからない時に、意識から教えてもらつて仕事上スムースに行くようになったというのがけつこうあつたんですね。困つた時に助けてもらう。そういうのも問題の解決に

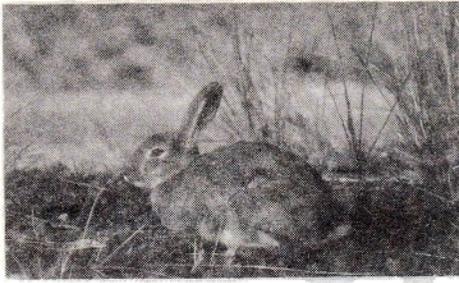
なるというか、そういうことなんですけど、不分からそういう意識の方へも目を向けてるといことが大切と思つています。意識と一体化するように自分向けて行く。全くの基本ですけれども何回言つても足らないくらいで……そうですね。(中略)

本山「さつき先生のテレパシー解説講義聞いてた時なんですけども、あの中に要するにきれいな女性の話が出て来たんですけども、あの話とうちの母とがそつかりだつたんです。

まあそれで、GAP会員成りたての時かな、この本の文章の所を母親に見せた訳ですよ。その当時まで血圧二百以上位はしょつちゅう上がつてはぶつたおれて、医者からしょつちゅう血圧降下剤というのをもらつて飲んでたんだけども、まあ肝臓こわすからつて言う訳で時々やめるんだけど、まだ上がる訳だ。そういう時にうまい具合にGAP会員になつたという気もしたんですけども、あの部分のケ所(テレパシー開発法85p-88p)をパツと見せて読ませたという感じなんだけども……

まあとにかくしょつちゅう自分自身がイライラしてるから、こつちの方にもまともな伝つて来るからね。こつちの方もイライラする。つい親子げんかが始まつたりして……

ところがそのケ所を読んでから変化起こしたらしくて、てき面だつたんですね。(中略) 急に物を見てた瞬間なんですけども、それも仕事やつた時だつたと思つて



山口 糸

すけども、なんか自分の今見ているものは全部神の造った現われである。というような想念がパッと起こってきたんですよ。そして、何を見ても神様だ神様だって感じて、その日一日がすごく楽しかった時のような気がします」

——上空からスペースブラザーズが祝福の想念を送ってたんじゃないですか。

本山「ふだん俺自身神様という言葉は使いたくないんですよ。どっちかというところの現われであるとかなんとかって言うのはめったに使わないです」(以下略)

印象と信念

清水 正

Uコン90号の朝霧高原の不思議な夕月々では、いつどんな時にも内部の意識に敏感となり、四つの感覚器官に振り回されず、そして、スペースブラザーズの対応は以外なるものである等多くのことを教えてくれています。

この日、朝霧高原では富士山が最高の眺望にあったとのことでした。ついついその目が美しい富士山に向うのは当然であったと思います。まさか上空の月がUFOだったとは、まずこれまでのことからしてUFOの出現パターンとはまるで違います。UFOが月の模様まで同じにしているのですから、そこを見抜くには既成の概念にとらわれてはむずかしいのかもしれない。

スペースブラザーズは時々私達にテストとっていいのでしょうか、特に内部の印象について敏感になるようにと多くのアップीलをしています。疑いを持たずに内部の意識からの印象を聞くように

と……

UFOの出現はただ目を楽しませることより、その出現によって私達の進歩につながることを願うことであると思えます。相馬氏のUFO自撃、撮影にしてもテレパシーの重要さを氏は痛感しておりましたように、テレパシクな感知力、内部からのフィーリングを高める事が必要だからなのでしょう。

久保田先生がUコンの巻頭言で書かれている、「テレパシー時代の到来」の中で、高松事件はテレパシーに対する意欲を高めるように仕向けたと理由の一つに述べています。

アダムスキー存命中には何度もスペースブラザーズが私達に働きかけていることがありました。その中に、アダムスキー論説集一〇一ページには「最近異星人から多数の手紙が多数の地球人へ送られました。なかには一通以上も受け取った人があります。これは受け取り人の謙譲さとまじめさをテストするために発送されたものです」ということがありました。こうしたことは、私達の目に見えない印象があることを知らせ、目的をより明確にし、信念を高めてくれることに役立って来たと思えます。

人間は自分で考えたとおりの者になる

生命の科学88ページに「人間は自分で考えたとおりの者になる」という言葉があります。これは偉大な真理を言い表わしています。

私達地球人は結果の姿を優先して来ましたが、形振構わぬ蓄財や競争を行なうことになって来ました。そのため、生まれながらの身分から、その容姿まで差別を設けて来たのでした。これは自然な人間としての表現、宇宙の意識から考えても不自然なことです。地球人社会は結果を優先して混乱して来ました。

人には差がありますが、その差が必要な役割りを決めています。自分の役割りを奉仕の目的を持ってもっと伸ばそうとしながらも達成されなくても、人間は自分で考えたとうりの者になる々はまちはないことですよ。まくいかなくても完成に向かおうとする姿勢が尊いと思えます。

アダムスキー論説集二六二ページには、アダムスキー氏の人柄についてアリスポマロイ女史が述べていました。「アダムスキー氏は各個人についても深い関心を示めし、要易に目標に達しないにしても努力する人を祝福しました。しかも氏がどんなに人々を愛してそれを助けようとしたにしても、自分の内部の真実を認めようとしなない人にはほとんど望みがないことも知っていました。」

私達はスペースブラザーズと共にあり宇宙の意識と一体化することを願っています。まだ知られていない宇宙の真実はものすこし事実を満たしていることでしょう。

今居る地球という教室で多くの人々と共に学びながら真の目的を発見していきましょう。という信念を持って、皆さん共に前進してまいりましょう。

自然と テレパシー

山口 緑

今夏、一年ぶりに山形の田舎に帰郷した際、母から興味深い話を聞かされたので、ご紹介いたします。

私の母は、かねてからオーラ透視や夢予知等の力を時折発揮することがあり、特に私と宇宙問題を話すようになってからは、その力も少しずつ伸びてきたようです。一時は、このような能力はク魔力クである信じ、何とかして捨てようと思ったようですが、私がそうした能力は自然のものであり、応用の仕方によっては人をも救えるものだ、と何かと説明しましたら、その後は、恐怖感も起こらずにいるようです。

原因不明の頭痛

さて、わが家では過去二十余年に渡ってブドウ園を経営してきました。そのブドウ園は山脇の、あまり土の肥えたところに立地しているわけではないのでこの数年不作続きでした。

そんなある年の春になって、父と母は毎日のようにブドウ作りの下準備のためブドウ園に通いましたが、そこで母は原因不明の頭痛に悩まされることになりました。それが不思議なことに、母がブドウ園に入った途端に頭痛が始まる、というのです。そして、作業が終わってブドウ園を出ると、ピタリと頭痛が止み、何ともなくなるというわけです。不思議に思いながらも、翌日再びブドウ園に入るとまた入った瞬間に頭痛が始まりました。そんなことが何回か繰り返えすうちに母はその原因を自分で見つけ出したので

す。

頭痛の原因はマイナス想念

母は、寝ながらに考えました。そして「あつ」という印象を受けたのです。母は、その年のブドウの作柄に不満を持ち続け、「こんなブドウは育ててもしようがない」とずうっと思い続けていたのです。さらにわかったことは、母は、「こんなブドウは切つてしまい、別の作物を作った方がいい」という気持ちまで起こしていたのでした。結局、この母のブドウに対してのマイナス想念、切つてしまおうとする破壊的な思いが、そのままブドウの細胞に通じ、ブドウ自身が母にそんなことはやめてくれ、という無言のテレパシーを送信していたのです。

母は以前から、野菜などの作物を育てる時には、常に無言のテレパシーを作物に対して送っていたようです。そしてわが子に接する時と同じようにして、作物に対して「大きく、りっぱに育つてくれ！」というような愛に満ちた想念を送っていたようですが、この時はやはり、そうした想念を忘れていたようです。この話を聞いて、やっぱり植物も無言のテレパシーを人間に対して放出しているのだなあ、と実感しました。と同時に、人間はそうしたテレパシーを受信する敏感さを持たなくちゃならないと痛感したのです。

立派なブドウに実ったが……

さて、自分の過ちに気づいた母は、その翌日急いでブドウ園に行くと、ブドウの幹をなでながら、一本一本に対してあやまって歩いたそうです。「悪かった。許して下さい。おねがいですから立派なブドウに育て下さい……」

その母のプラスの想念に応えてか、ブドウはめきめきと成長し、通常では考えられないほどに成長に躍進があらわれました。そして今までにないくらいの大収穫を得たといえます。母の頭痛がその想念の転換の日からピタリと止まったのは言うまでもありません。

ここで、この話が終わればめでたし、めでたしのハッピーエンドですが、実はさらに痛烈なテレパシー体験を母は話してくれました。

ブドウ園に行かなくては……

その年の秋に大収穫を得て、冬を迎えることになりました。ところが、その冬はかなりの大雪で、作物にも大きな影響を与えたのでした。

十一月下旬、父と母は納屋で干し柿作りの作業に追われ、かなり忙しい日々でした。その日もその仕事に精を出している最中でしたが、いつの間にか雪が降り出しました。その頃から母は胸さわぎがし始め、ブドウ園のことがしきりに気になり出しました。それで居ても立ってもいられなくなり、父にいつしよにブドウ園に行ってみようと思いかけてました。ところが、父は、この忙しいのに行つては行れないといつて行くのには同意せ

この二つの話を通して夕生きたテレパシークというものを感じると同時に、こうして絶えず、植物、動物、鉱物、あらゆるものから印象を発していることを実感しました。そして、宇宙の意識はあらゆる万物に宿り、それを生かし続け、私たち人間にもさまざまな印象を発していることを新ためて実感させられました。部屋にあるテープレコーダー、服、時計、テ

母が家に帰った直後、電話が入りました。家のブドウ園の近所の人からでした。「おたくのブドウ園が雪でつぶれてるよ」母はどんな思いにかられたか想像に難しくありません。母はいいいます。「ブドウは私に教えてくれたんです。いや助けを求めて叫んでいたんです。それを無視した自分がなさない。あの時、ひとりでもいいからブドウ園に行くべきだったよ。」

意識はなんでも教えてくれる

ず、結局気になりながらも母の手ひとつでは、どうすることもできないということとで断念することになりました。そして、近所におつかいに行く用事ができ、その時は、地面には雪がほんのわずかしかないので短グツでかけましたが、三十分ほどたって帰ろうとする時は、膝まで雪があつて、家にもやつの思いで帰ってきました。その時、母は非常にいやな予感がしたといいます。

ブドウ園がつぶれた

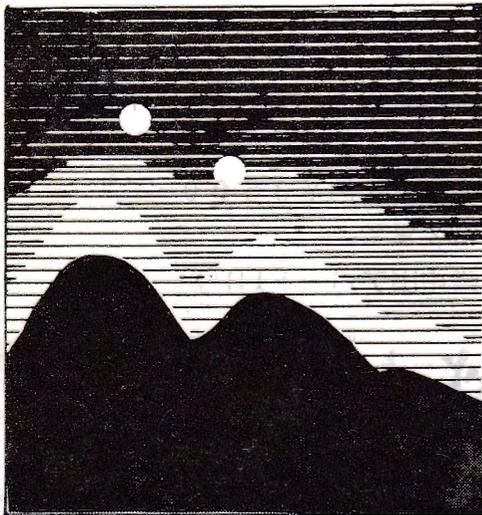


「ブル、ナベ：：いろいろな物が私たちに絶えず語りかけているのです。こちらがそうした物に絶えず愛と感謝の想念を放射することによって、必ずよき反応を示してくれるでしょう。大切なのは、この宇宙の意識の声を聴く耳を持つことですね。そのため絶えまぬ努力が是非とも必要です。」

山形支部会員 によるUFO目撃

— その1 —

高野 昌子



日時は一九八一年九月上旬夜です。何となく、部屋の中から廊下に出て空を見ていました。星の多い日でした。東側の山の方を見てみると、青白く光ったり、オレンジに変わったりしながら南方へ行く二機の飛行物体を見つけました。UFOだと思いました。しばらくふらふら飛んでいる二機を見ていましたが、ふと本当にUFOかなと、人工衛星ではと思いはじめました。それで、テレパシーで、夕宇宙の方なら私に教えて下さいと心の中で数度となえました。すると遅れてやや上部を飛んでいた一機が突然山の中へ隠れました。やっぱりそうなんだと思っていると、また再び山の間からじょじょに機体が見えました。あとは後方にいた機体が前方の機体を追い越して前へ出て南方へ行きました。

(ごあんない) 第6回 日本GAP

山形・仙台合同支部大会

秋も深まり紅葉の彩る頃、山形県米沢市で第6回山形・仙台合同支部大会が開かれます。これまで各地で開かれました大会は、宇宙的な波紋となって人々に静かに確実に影響を与え続けてきました。こうした拡がりやまた一つ米沢に落とされようとしています。山形支部と仙台支部が力を合わせて皆様に送ります山形・仙台合同支部大会に是非お越し下さい。

◎日時：10月20日（日）午後2：00～6：00

◎会場：「置賜総合文化センター」2F 203研修室 ☎0238-21-6111

山形県米沢市金池3-1-14（奥羽本線米沢駅下車徒歩20分、タクシー5分。東京方面からは上野駅より東北新幹線で福島下車、福島より奥羽本線特急に乗り換えて米沢まで40分。上野・米沢間は2時間30分。）

◎会費：¥2000（希望者のみ全員記念写真代¥800を別納。グランドキャピネ判、送料共）

◎プログラム

- 2：00 支部代表挨拶
- 2：20 講演「アダムスキー哲学の生かし方」久保田八郎先生
- 3：30 休憩、記念撮影
- 4：30 全員自己紹介、質疑応答
- 6：00 閉会

◎夕食会：大会終了後6：30から8：30まで会場近くの「ニューグランド北陽」で開催。会費 ¥5000

◎宿舎：「ビジネスホテル金池」をお世話します。1泊¥3500（シングル、ツイン共）※収要人員32名まで。

◎申込：〒992 山形県米沢市中田町901-2県営中田アパート141号
清水 正 ☎0238-37-5635

◎観光：大会翌日は山形交通観光バスで上杉の城下町米沢市内観光と天元台へロープウェイ登山を予定しています。山上では山形名物「芋煮」をご笑味していただきます。

朝10：00出発、午後3：30米沢駅着、解散。



Autumn

ぶどう狩り picking-grapes

秋の味覚の王者はなんといってもぶどう。国道13号線沿いにありマイカーや観光バスも手軽に利用できる。

いも煮会 Cooking and eating local taro dishes

秋の米沢の風物誌いも煮会は、市内中央を流れる松川河畔に幾本もの煙が立ちのぼり、それを囲んでの酒席に話がはずむ。ご利用は市内の料理店等へ申込みばよい。

松岬神社秋季例祭 Matsugasaki Shrine autumn festival

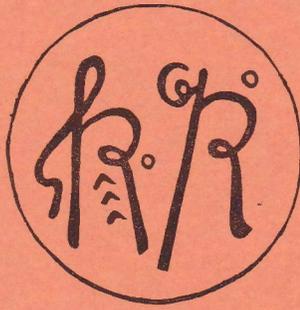
上杉家二代景勝公と十代鷹山公を祀っており、産業の神様として有名である。9月9日が例祭で、近郷近在からの野菜等をもちよつての棒くい市が恒例である。

紅葉狩り Maple-Viewing (An excursion for viewing scarlet maple leaves)

米沢は盆地であり寒暖の差が大きく、したがって紅葉がすばらしい。吾妻山頂に始まり約1ヶ月を費し里に下ってくる。名所としては西吾妻スカイパレーと東吾妻に点在する温泉付近が特にすばらしい。

祝 創立25周年記念 機関紙90号発行記念 日本GAP総会

来たる九月二十二日(日)には、日本GAP総会が創立25周年記念、機関誌90号発行記念行事と共に盛大に開催されます。日本GAPは久保田先生の確固たる信念のもとに、25年の歳月を發展してきました。これまでの先生のご奉仕に対する感謝を込め、そしてこれからのGAP存在の重要性を認識しながら祝福をもって、皆さんとの記念行事を大成功に道びくために参加し友好を深めて素晴らしいひとときを過ごしてまいりたいと思えます。今年の大会は、会場を銀座ガスホールへ移し、清新な宇宙的な雰囲気の中にスライド多数使用するプログラムになっています。参加される皆さんとの再会と、新しい友との出会が楽しみです。



山形支部月例研究会

毎回、GAP山形支部月例会では、ページに掲載したような身近な話題を中心に、宇宙哲学をベースに向上をめざして話し合いの場を設けています。

互いに理解しあうテレパシクなフィリングを高める練習を行ないながら、楽しいリラックスした雰囲気の中ですめられています。どうぞ御気遣に御越し下さい。

毎月第一日曜日午後一時～五時

会場 山形福祉文化センター

◎0236(42)5181

プログラム

東京本部月例会における久保田先生による「テレパシー開発法」解説講義テープ公開。

近況報告、座談会、研究発表。

テレパシー練習

会費 200円

持参品 「テレパシー開発法」(文久書林)筆記用具

※月例会終了後は夕食会を予定しています。

※十月の月例会は、山形・仙台合同支部大会のため中止します。

編集後記

★相馬氏のUFO目撃は、大変興味深いものがありました。UFOと相馬氏とが互いに見つめ合ったフィリングを覚えたこと、相馬氏のテレパシー送信にはつきりと応答したことが素晴らしいと思います。スペースブラザーズは、いつもどこかで誰かに、働きかけ続けてこられました。これからもこうした事件が増えてくることでしょう。

そのためにテレパシクな能力開発が重要となって来るのでしょう。

相馬氏は、このUFOの目撃場所については詳しい発表をひかえてほしいとのことでした。その理由として、全集「UFOとアダムスキー」(1967) どうして宇宙船のアップの写真を撮らせてくれないのか? というアダムスキーの質問に対するスペースブラザーの答が載っています。こうした事に微妙な配慮がなされている事がうかがえます。ということでした。

なお、記事中の絵は相馬氏に描いていただきました。

★篠氏には、記事掲載をお願いしてから三ヶ月間をこのために偉人伝を読まれて宇宙的フィリングを持つ人々を研究していただきました。大変貴重な記事をいただきました。

★本山氏は、多くの人から伺ったヒントなどから、多数の印象がそれにつれて湧きあがって来られるそうです。この原稿を書きながらも、次々に印象が湧いてき

て、まとめるのに大変でした。ということでした。

これからの研究成果に期待したいと思えます。

本山氏の「宇宙活動の共通点」に関して何か御意見があればどしどしお寄せ下さい。

★山形支部月例会座談会は、山形支部の話し合いはどんなものかというのを皆さんにお伝えできればと企画いたしました。紙面の都合で半分ほどは割愛させていただきました。

このような話し合いのもとでこれからも皆さんと語り合ってまいりたいと思えます。

★表紙タイトル文字は、安藤澄雄紙に作っていただきました。どうもありがとうございました。

★支部報がようやく出来上がりました。原稿をお寄せ下さいました皆さん大変ありがとうございました。また、このような仕事を与えていただきましたことに深く感謝いたします。(編者)

日本GAP山形支部報

ユニバーサルメッセ23号

編集発行人 清水 正

発行所 日本 山形支部

〒992山形県米沢市中田町

901-2

県営中田アパート141

◎0238(37)5635

1985年9月10日発行